

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第844号 平成26年12月2日

### 中年男の愚痴

世の中は、なかなか自分の思うように行かぬ事が多くて、愚痴の一つもいいなくなる事があると思います。かといって、腹を割って愚痴をいうのも難しいというのが現実でしょう。

第一生命保険（株）は、毎年サラリーマン川柳を募集し、その優秀作品を発表しており、今年の上位10作品は以下の通りです。

#### サラリーマン川柳2014 上位10作品

- 1位：うちの嫁 後ろ姿は ふなっしー
- 2位：物忘れ 便利な言葉 「あれ」と「それ」
- 3位：妻不機嫌 お米とみそ汁 お・か・ず・な・し
- 4位：帰宅して うがい手洗い 皿洗い
- 5位：おもてなし 受けてみたいが あてもなし
- 6位：「イイね」には 「どうでもイイね」が 約5割
- 7位：やられたら やり返せるのは ドラマだけ
- 8位：「オレオレ」に、爺ちゃん一喝「無礼者」
- 9位：いつやるの？ 聞けば言い訳 倍返し
- 10位：ワンコより 安い飯代 ワンコイン

なかなか軽妙な作品ばかりとはいえ、中には身につまされるものもあり、サラリーマン諸氏の苦勞も偲ばれます。

このサラリーマン川柳10作品を見ると、8位の「爺ちゃんの一喝」を除けば愚痴そのものといって良いでしょう。でも、自分の愚痴を、サラリーマン川柳にして吐き出せるというのは、幸せな事だと思います。

ところで、愚痴という字は、元は仏教の言葉から来ていて、愚痴の痴は<sup>どん</sup>貪、<sup>じん</sup>瞋、<sup>ち</sup>癡（痴）という根本的な3つの煩惱（3毒）の一つとされています。私には、この3毒を解説する力はありませんが、「貪」は欲深くむさぼる事、「瞋」は自己中心的な心で怒る事、「癡（痴）」は、道理の分からない愚かな事をそれぞれ意味しているといわれています。こうして見ると、「愚痴」というのは愚かな事を二乗したようなもので、「愚痴」をいって憂さを晴らすというのは、救い難い凡人の煩惱という事になります。

浄土真宗本願寺派では、2012年11月から若い僧侶等約20人が京都市内の飲食店等で悩みを聞くボランティア活動「グチコレ」を行っており、先般、今年の

4月15日までに集まった延べ約1千件の「愚痴」を分析した結果を公表しています（5月10日付北海道新聞他から）。

それによると、愚痴の数を年代別で比較すると、20代までは女性が多いが、50代以降は約6割以上を男性が占めているそうです。

「男性は、年を取る程愚痴っぽくなる」という事なのでしょうか。

また、愚痴の内容では、50代男性の12%、70代男性の18%が「奥さんが欲しい」等の恋愛に関するものだったそうですが、一方、同じ世代の女性にはこうした悩みはゼロだったそうです。何やら、男性の女々しさが身に沁みます。

浄土真宗本願寺派では「男性は家庭や職場で愚痴を言いにくいのでは。高齢男性は、身の回りの世話をしてくれる存在を求めているのかも知れない（5月10日付北海道新聞他から）」と推測していますが、愚痴る事で、ストレスが発散され、気持ちが少しでも前向きになれるなら、3毒の一つといわれる愚痴にもそれなりの効用はあるというものでしょう。だいたい、愚痴をいったからといって、それで問題が解決するとは、愚痴をいった当人自身考えてはいないのでから。

だとすれば、愚痴をいい合う仲間を沢山作っておくのも、老後を生きる知恵？かも知れません。

（塾頭：吉田 洋一）